

エクソン モービル(XOM)

【セクター】 エネルギー

【市場】 NYSE

【企業概要】

世界最大級、米国最大の総合石油企業です。原油・天然ガスの探鉱と生産のほか、各種石油製品の製造・販売、オレフィン、芳香族化合物、ポリエチレン、ポリプロピレンプラスチックなどの石油化学品の製造を手掛けます。部門別の純利益構成は、原油生産部門が60%、石油精製部門が26%、化学部門が14%です（18年12月期）。確認埋蔵量は243億石油換算バレル、1日当たりの石油精製能力は4.7百万バレルです（18年12月末）。

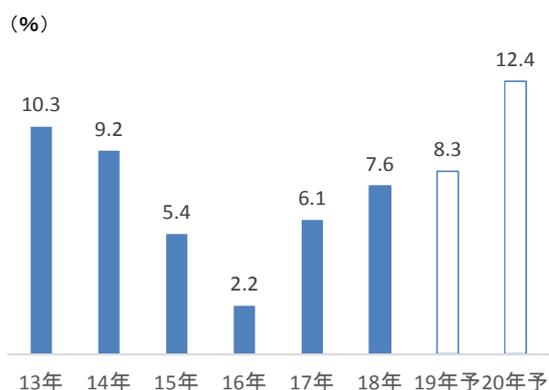
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
17年12月期	237,162	15,289	3.59	3.06	44.3	11.1	55.8
18年12月期	279,332	21,038	4.93	3.23	45.3	11.0	57.3
19年12月期予想	271,846	13,618	3.23	3.43	45.5	7.6	-

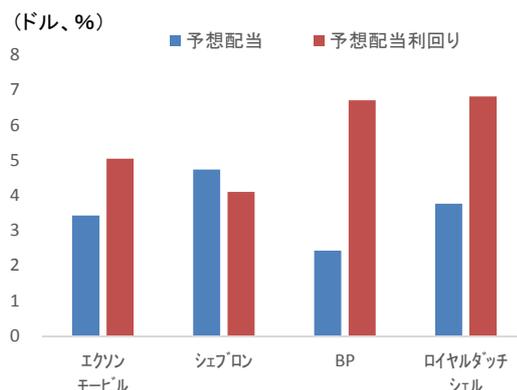
※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【主要指標】

図表1 営業利益率

注：予想はBloombergのコンセンサス予想です。
（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

図表2 エネルギー大手の配当と配当利回り（19年12月期予想）

注：8/26（月）時点の予想配当と株価によります。
（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【会社の見方】

会社の信用格付けが「AA+」と財務体質が強く、2014年からの原油価格の下落によって利益が落ち込んでも株価は配当利回りによって支えられ、反面原油価格の反発局面でも株価の連動性が低い状態が続いていると見られます。ただ、ここ数年のコスト削減によって原油価格が50～60ドル台でも来年の営業利益率は原油価格が100ドル前後にあった2013年のレベルを超える見込みです（図表1）。予想EPSで5ドル台が見えてくると株価も原油価格の動向により敏感に反応するようになると見られます。

【見通し・注目点】

同社は生産コストが高い原油生産資産を売却して生産コストが低いものへの入れ替えを進めており、この過程で原油の生産量が低迷、特に18年は前年比3.8%減となっていました。しかし、19年に入ってパーミアン盆地でのシェールオイルの生産増が牽引して前年同期比プラスへ回復していることが好感されます。ただ、19年4-6月期決算は、マージンの縮小や設備メンテナンスが通常よりも多かったことで石油精製部門、化学部門の利益が落ち込み、利益は市場予想を下回りました。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/8/28)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。